

[成果情報名] イバラトミヨ特殊型の小見川における食性

[要 約] 小見川で採集したイバラトミヨ特殊型の胃の中で確認された餌生物は、ヨコエビ、ミズムシ、ユスリカの幼虫の順で多かった。

[部 署] 山形県内水面水産試験場・資源調査部

[連絡先] TEL 0238-38-3214

[成果区分] 研

[キーワード] イバラトミヨ特殊型、食性

[背景・ねらい]

山形県に生息するトミヨ属の生態を調査した例は少ない。しかし、保護対策を検討するためには、その生態を把握する必要がある。そこで、東根市小見川で個体を採集し、イバラトミヨ特殊型（以下、特殊型）の食性について調査を行った。

[成果の内容・特徴]

1. 調査に用いた特殊型は、許可を得て、平成19年3月16日に、小見川で採集した。
2. 採集した18個体中4個体は空胃であった。胃の中で確認された餌生物は、ヨコエビ（図1）、ミズムシ（図2）、ユスリカの幼虫（図3）の順で多く、ヨコエビが確認できたのは14個体中9個体、ミズムシが確認できたのは14個体中4個体、ユスリカの幼虫が確認できたのは14個体中2個体であった。また、胃内の餌生物が不明な個体は3個体であった。（表1）
3. 新庄市中川原の保全池では、ユスリカの幼虫やまゆを捕食している個体が多かった。調査時、小見川では多くのヨコエビが、中川原では飛んでいる多数のユスリカ成虫が確認されている。このことから、特殊型とイバラトミヨ淡水型、また採集時期（新庄市中川原の保全池での採集は秋）という違いもあるが、その生息場所にいる、口に合うサイズの生物を、特に選択性なく捕食している可能性が示された。

[成果の活用面・留意点]

1. 特殊型の保護対策を検討していく上での基礎的な知見となる。
2. 特殊型の生息地を拡大する際、今回報告した生物の生息地拡大候補地での有無が、その地が生息地として適するかどうかの一つの指標となると考えられる。

[具体的なデータ]

表1 特殊型の胃の中で確認された餌生物

胃の中に確認された餌生物	個体数
ヨコエビ	9
ミズムシ	4
ユスリカの幼虫	2
不明	3



図1 ヨコエビ



図2 ミズムシ



図3 ユスリカの幼虫

[その他]

研究課題名：希少淡水魚の生態および保護技術の開発

予算区分：県単

研究期間：平成19年度（平成16～19年度）

研究担当者：河内 正行

発表論文等：